

## 第4期嶺北地域アクションプランの進捗状況確認資料

嶺 北 地 域 本 部

令和5年2月7日（火）

**嶺北地域アクションプランの進捗状況確認資料**  
**(令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開)**

R5.2.7

嶺北地域本部

1 地域アクションプランの令和4年度第3四半期の実施状況と令和5年度の展開（総括）

(1) 総評

令和4年度は、農業分野8プラン（うち畜産関係2プラン）、林業分野2プラン、観光分野4プラン、商工業分野7プラン、集落活動センター関係の3プランで全24のアクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めてきている。

また、嶺北地域においては、4町村相互に関わる取り組みや、4町村全てに関わる取り組みも多いことから、常に連携を図りつつ、各町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略等の取り組みとベクトルを合わせながら推進している。

新型コロナウイルスの感染状況は、一進一退を繰り返しているものの、行動制限の緩和や全国旅行支援をはじめとする需要喚起策等により、観光施設や宿泊施設等への入込客数はコロナ前の水準に戻りつつある状況であり、当地域における入込客数や宿泊者数も回復傾向にある。

一方で、飼料価格や原油価格の高騰などによって、一次産業を中心に経済活動に大きな影響が出ており、現在様々な対策が講じられているところである。

**農業分野**では、「れいほく八菜」など園芸作物、ブランド米「土佐天空の郷」や、地域で代々受け継がれてきた「銀不老」や「基石茶」などの生産拡大の取り組み、さらには本山町の次世代園芸ハウスの稼働により、施設野菜（パプリカ）の生産拡大や担い手・雇用の確保を進めている。

畜産関係では、土佐あかうしの品質向上や増頭、大川黒牛の生産体制の強化に向けた取り組みが進められており、また、土佐はちきん地鶏については、県内での消費拡大や関西圏などをターゲットにした販路の確保に取り組んでいる。

**林業分野**では、さらなる原木増産や安定供給を図るとともに、木質バイオマス発電施設の整備など、地域内での連携した取り組みが進められている。

また、嶺北材の需要喚起に向けたPRや営業活動の強化にも取り組んでいる。

**観光分野**では、「アウトドアヴィレッジ本山」、「ゆとりすとパークおおとよ」、「さめうらカヌーテラス」などの拠点施設を中心に、さらなる交流人口の拡大に取り組んでいる。

昨年4月にリニューアルオープンした「さめうらテントパーク」については、今後もアウトドアキャンプを楽しめる、魅力あるエリアとしての段階的な施設の拡充や、「山荘梶ヶ森」もさらなる磨き上げに取り組んでいくこととしている。

また、(一社)土佐れいほく観光協議会が、4町村及び地域内の観光関連事業者と連携して、昨年度に引き続き、嶺北地域誘客促進キャンペーンなどの取り組みが行われた。

**商工業分野**では、土佐酒造(株)では、地元産の酒米にこだわった日本酒の販路拡大に向けて、輸出拡大も視野に、衛生面に配慮した生産性の高い工場の増設に取り組んでいる。

また、(有)さめうらフーズについても、昨年3月にペットボトル工場が完成し、引き続き新たな商品開発や、さらなる販路拡大に取り組んでいる。

**集落活動センター関係**では、当地域に設立されている12センターのうち、大豊町の西峯が林業用苗木(コンテナ苗)の生産拡大、土佐町のいしはらの里が交流人口の拡大(宿泊等)、本山町の汗見川が交流人口の拡大(宿泊等)とシソの生産拡大にそれぞれ取り組んでいる。

来年度のアクションプラン数は、本年度と同様の24プランとなっており、引き続き実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議や進捗管理を行うとともに、町村や、実施主体、商工会などの関係団体等と連携し、事業戦略の策定や各種支援制度の活用などにより、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいく。

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>1 れいほブランドの園芸産地の維持(嶺北地域全域)</b>  <b>【実施主体】</b> ◎・JA高知県(土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィデンスフラワー) ◎・大豊とまと生産者・JA高知県(土長地区) ・中山間農業複合経営拠点	JA園芸部販売額 1.7億円(R元)	R2	1.75億円	1.74億円	B	1 産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み (1)栽培管理指導(八菜/かん水・温湿度管理、病害虫防除、整枝方法等:4～9月、冬期に向けた温度管理、土壌病害対策、実証ほの中間報告等:10～12月、定植前のかん水管理、病害虫防除、防除暦の改訂、実証結果報告等:1～3月) (2)土壌調査による改善指導及び生育状況確認(花き 4～12月)  2 生産の維持と担い手の育成 経営改善支援 (農家の課題共有・経営改善目標の設定:4～5月、取組状況の確認・経営改善指導:4～12月、経営改善の取組報告:10～12月、経営改善結果の取りまとめ及びフィードバック:1～3月)	1 産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み (1)栽培管理指導(4～11月・12回) ・省力的な病害対策(硫黄粉剤・燻煙剤の活用・除湿) ・基本的な栽培管理技術(かん水・温度等)の普及 ・着果負担・高温障害軽減技術の検討 ・土壌消毒の現地実演の実施 (2)土壌調査による改善指導及び生育状況確認、病害対策のための土壌調査及び生育状況確認(4～11月・4回)  2 生産の維持と担い手の育成 ・経営支援農家の課題共有(4～5月・13戸) ・経営改善目標の設定(5～8月・13戸) ・経営改善指導 :基本管理技術(かん水・温度等)、病害対策(天敵の活用・硫黄粉剤等)(5～12月・13戸)	1.51億円(11月末時点)  ・R4目標達成率:—% ・対前年同期比:—%	—	(成果) ・省力的な病害防除技術や基本管理技術の普及を行い、紹介した技術を導入している農家が増加してきている。 ・土壌消毒の効果を高めるため、処理時期を早めたり、土壌水分状態に気を配る等新たな取り組みや改善を行う農家が増加してきている。  (課題) ・土壌病害の減少 ・栽培管理の省力化  (今後の方向性) ・土壌調査による病害対策の推進 ・省力的な栽培管理技術の普及 ・経営支援農家の目標達成に向けた支援	1 産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み (1)栽培管理指導(八菜/かん水・温湿度管理、病害虫防除、整枝方法等:4～9月、土壌病害対策、実証ほの中間報告等:10～12月、定植前のかん水管理、病害虫防除、防除暦の改訂、実証結果報告等:1～3月) (2)土壌調査による改善指導及び生育状況確認(花き 4～12月)  2 生産の維持と担い手の育成 経営改善支援 (農家の課題共有・経営改善目標の設定:4～5月、取組状況の確認・経営改善指導:4～12月、経営改善の取組報告:10～12月、経営改善結果の取りまとめ及びフィードバック:1～3月)
			R3	1.75億円	1.46億円	C						
			R4	1.75億円								
			R5	1.8億円								
		JA花き部会・コンフィデンスフラワー販売額 1.3億円(R元)	R2	1.35億円	1.38億円	A		1.52億円(11月末時点)  ・R4目標達成率:—% ・対前年同期比:—%	—			
			R3	1.4億円	1.89億円	S						
			R4	1.8億円								
			R5	1.85億円								
		大豊とまと販売額 2,000万円(R元)	R2	2,500万円	2,356万円	B		※大豊とまと販売額は農家独自での販売額であるため最終まで把握困難  ・R4目標達成率:—% ・対前年同期比:—%	—			
			R3	2,500万円	2,264万円	B						
			R4	2,500万円								
			R5	3,000万円								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
			年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	2 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進(本山町)  【実施主体】 ◎・本山町特産品ブランド化推進協議会 ・(一財)本山町農業公社 ・本山町	「土佐天空の郷」「天空の棚田米」合計販売額 0.6億円 (R元)	R2	0.7億円	0.5億円	C	1 ブランド米の生産維持、販売促進 (1)「土佐天空の郷」栽培基準の見直し ・栽培基準見直しに向けた調査内容の検討(5月)、にがり散布回数の違いによる生育、品質、食味への影響の調査(7～11月)、食味官能試験(12月) ・栽培基準見直しに向けた調査結果報告(1～2月)  (2)生産者の確保 ・育苗管理等指導(5～6月)、生育状況確認および水管理、病害虫防除・施肥管理指導、FBを活用した生育状況等の情報提供(6～9月) ・籾の黄熟割合による判定と収穫適期予測結果を組み合わせた適期収穫の指導(10月) ・個人別の収量・品質実績を活用した次年度の栽培計画作成支援(1～2月)  2 スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化 ・水田センサからの気温、水温および水位データの収集、水田センサを活用した収穫適期予測の実施および周知(8～9月) ・ドローンによる防除効果、散布実績の確認と効率的な運営方法の検討(10～12月)  3 おにぎり製造販売事業等による収益拡大 ・来店者・購入者の属性分析の実施、分析結果に基づく販売戦略の実施及び活動評価 ・おにぎり等加工品開発支援	1 ブランド米の生産維持、販売促進 (1)「土佐天空の郷」栽培基準の見直し ・栽培基準見直しに向けた調査内容の検討(役員会2回、総会2回) ・栽培基準見直しに向けたにがり散布回数違いによる生育への影響の調査(8月・2回) ・にがり散布回数を遅えたサンプルの美食(食味官能試験)調査(12月・1回)  (2)生産者の確保 ・生育状況確認(7～8月・個別巡回3回) ・水管理、病害虫防除・施肥管理指導(総会・6月1回、現地検討会・7月1回、個別巡回7～9月・5回) ・FBを活用した生育状況等の情報提供(7～9月・5回)  2 スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化 ・水田センサからの気温、水温および水位データの収集(7～10月) ・ドローンによる防除効果の確認(8～9月・達観調査3回) ・ドローンによる防除効果・散布実績の確認(11月)  3 おにぎり製造販売事業等による収益拡大 ・公社主任会議での予実管理状況確認(5～8月:4回) ・来店者・購入者の属性調査(4～5月、7～8月、9月) ・おにぎり等加工品開発(4～11月:5種類(内2種はセット商品))	0.3億円(11月末時点)  ・R4目標達成率:—% ・対前年同期比:85%	—	(成果) ・開発した5種類の加工品を継続販売に繋げることができた。  (課題) ・干ばつの影響で収量を断念したほ場や、収量低下の懸念があるほ場がある。 ・来店者・購入者の属性調査結果の分析・共有までできたが、加工品開発に反映できていない。  (今後の方向性) ・適切な肥培管理、病害虫防除の徹底により、必要な出荷量の確保・品質の向上につなげる。 ・来店者・購入者の属性分析が実施されるよう、定期的実施状況を確認するとともに、加工品開発に反映できるよう助言する。	1 ブランド米の生産維持、販売促進 (1)見直された「土佐天空の郷」栽培基準の実施 ・栽培基準周知(4月) ・販売促進活動、栽培管理指導については(2)と同じ  (2)生産者の確保 ・育苗管理等指導(5～6月)、生育状況確認および水管理、病害虫防除・施肥管理指導、FBを活用した生育状況等の情報提供(6～9月) ・籾の黄熟割合による判定と収穫適期予測結果を組み合わせた適期収穫の指導(10月) ・個人別の収量・品質実績を活用した次年度の栽培計画作成支援(1～2月) ・販売促進活動(4～3月)  2 スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化 ・水田センサからの気温、水温および水位データの収集、水田センサを活用した収穫適期予測の実施および周知(8～9月) ・ドローンによる防除効果、散布実績の確認と効率的な運営方法の検討(10～12月)  3 おにぎり製造販売事業等による収益拡大 ・来店者・購入者の属性分析の実施、分析結果に基づく販売戦略の実施及び活動評価 ・おにぎり等加工品開発支援

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
			年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>3 直販所「さくら市」を核とした地域活性化(本山町)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・本山さくら市生産組合 ・本山町 ※地域産業クラスター関連(本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)	売上高 1.2億円 (R元)	R2	1.35億円	1.21億円	B	1 商品の充実 ・直販用野菜栽培技術向上支援(病虫害勉強会:4~6月、土作り勉強会:11月) ・公社野菜苗の供給に向けた品目等の検討・技術支援(打合せ会:4~9月、公社への個別巡回:4~12月) ・庭先集荷事業拡大に向けた検討(4~3月) ・生産者の商品管理の徹底(衛生管理・食品表示:4~3月)	1 商品の充実 ・公社野菜苗の供給に向けた検討(8月:2回、苗・種子約10種) ・公社野菜苗・種子の配布(9~12月、苗・種子13品目23品種) ・庭先集荷事業拡大に向けた検討(4~11月随時) ・生産者の商品管理の徹底(7月~12月:3回(さくら市だより)) 2 販売の拡大 ・販売状況の確認(部門別売上確認(5~11月:8回)、公社主任会議での予実管理状況確認(5~10月:4回)) ・さくら茶屋の活用状況確認(8月~12月:2回、活用回数:13回(4~12月)) 3 組織体制の整備 ・店舗スタッフの資質向上と商品管理技術向上支援(職員ヒアリング(7月:延べ3回)) ・店舗スタッフへの安心係養成講習会情報提供(9月:1回) ・安心係養成講習会に基づく、JA主催衛生管理・食品表示研修会及び食品表示セミナーへの参加(9月:1名、11月:1名) ・店舗スタッフへの食品表示指導(4~12月:5名)	R4到達目標に対する現状 8,157万円(11月末時点) ・R4目標達成率:82% ・対前年同期比:97%	C (成果) ・本山町農業公社に店舗運営に関する業務を委託開始(R4~) (課題) ・野菜苗・種子の供給だけでなく、栽培方法に係る周知が必要。 ・年間目標の達成状況の確認と目標達成に向けた検討が必要。 ・食品表示等制度の改正に合わせて商品管理徹底指導の継続が必要。 (今後の方向性) ・衛生管理・食品表示に係る研修会を開催する(2月頃) ・配布された品目・品種の販売状況を確認する。 ・引き続き県主催の研修会への参加誘導を継続する。	1 商品の充実 ・直販用野菜栽培技術向上支援(病虫害勉強会:4~6月、土作り勉強会:11月) ・公社野菜苗の供給に向けた品目等の検討・技術支援(公社への個別巡回:4~12月) ・庭先集荷事業拡大に向けた検討(4~3月) ・生産者の商品管理の徹底(衛生管理・食品表示:4~3月) 2 販売の拡大 ・販売状況の確認(4~3月、次年度販売計画の検討:1~3月) ・地域内外への販路拡大向上支援(4~3月) ・店内スペース、さくら茶屋の活用促進、旬の野菜を紹介するリーフレットの活用(4~3月) ・消費者交流イベントの開催(周年祭:7~9月) ・集客力向上に向けた情報収集(先進地視察:7~9月) ・本山さくら市だよりの発行(12月) ・消費者交流イベントの開催(年末感謝祭:10~12月) 3 組織体制の整備 ・店舗スタッフの資質向上と商品管理技術向上支援(職員会:4~3月、安心係の養成:7~9月) ・次年度運営体制の検討(1~3月)	
			R3	1.5億円	1.2億円	B						
			R4	1.5億円								
			R5	1.8億円								



(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	R4取組状況	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	<b>4 銀不老による地域活性化の取り組み(大豊町)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・大豊町銀不老生産組合 ・(株)城西館 ・日本航空(株) ・大豊町	出荷量 0.59 t (R元)	R2	0.6t	0.13t	D	1 生産者及び生産量強化に向けた取り組み ・広報等による農家への生産呼びかけ ・種子の配布  2 出荷体制の仕組み作り ・総会、幹事会の開催 ・関係団体による仕組み作りの検討  3 ブランド化に向けた取り組み ・栽培技術相談会の実施 ・体験交流イベントの開催 ・(株)城西館と連携した農作業イベントの実施 ・日本航空(株)高知支店と連携した農作業イベントの実施	1 銀不老の生産強化に向けた活動の充実 ・広報等による農家への生産呼びかけ (1回) ・種子の配布 (1回)  2 出荷体制の仕組み作り ・関係団体による仕組みづくりの検討 (随時)  3 ブランド化に向けた取り組み ・栽培技術相談会の実施 (1回) ・テレビ取材対応、番組での放送 (2回) ・(株)城西館と連携した農作業イベントの実施 (2回) ・日本航空(株)高知支店と連携した農作業イベントの実施 (2回)	0.36 t (12月末時点)	D	(成果) ・農家への生産呼びかけにより、新規農家が6件増えた ・事業者と連携したイベントを実施できたことで、テレビ等への露出が増えた  (課題) ・生産農家の確保 ・安定した組織体制の確立 ・販路拡大  (今後の方向性) ・さらなる生産農家の確保とともに、安定した運営をおこなうための組織体制の確立について検討する ・販路拡大についても検討し、出荷量の増加を目指す	1 生産者及び生産量強化に向けた取り組み ・広報等による農家への生産呼びかけ ・種子の配布  2 出荷体制の仕組み作り ・総会、幹事会の開催 ・関係団体による仕組み作りの検討 ・販路拡大の検討  3 ブランド化に向けた取り組み ・栽培技術相談会の実施 ・体験交流イベントの開催 ・(株)城西館と連携した農作業イベントの実施 ・日本航空(株)高知支店と連携した農作業イベントの実施
			R3	0.75t	0.25t	D						
			R4	0.75t								
			R5	1.2t								
農業	<b>5 本山市施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト(本山市)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・エフビットファームこうち(株) ◎・施設野菜農家 ・本山市 ・(一財)本山市農業公社 ・JA高知県(土長地区)  ※地域産業クラスター関連(本山市施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)	施設野菜出荷量 107t (H30)	R2	110t	105t	B	1 施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み ・環境測定データを活用した実践可能な環境制御技術の推進 ・省力的な病害防除対策指導 ・次世代園芸ハウスの病害虫防除等の生産技術支援 ・次世代園芸ハウスの安定生産に向けた関係機関が連携した支援の検討  2 二次・三次産業との連携の具体化 ・行動計画の共有によるクラスタープラン進捗管理	1 施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み ・園芸農家栽培管理技術及び防除技術研修(現地検討会4～11月7回) ・JA営農指導員SAWACHI利用研修会(6月1回) ・次世代園芸ハウスを活用した技術研修(現地検討会7月1回) ・次世代園芸ハウス栽培支援(個別現地指導4～11月25回) ・次世代園芸ハウス支援状況情報共有及び検討(関係機関連絡会4～11月8回)  2 二次・三次産業との連携の具体化 ・実行計画検討及び進捗状況共有(本山市連絡会4～11月7回、関係機関連絡会4～11月6回) ・個別打ち合わせ(観光協会7月1回)	144.4t (11月末時点)	-	(成果) ・省力的防除技術定着 ・次世代園芸ハウスバブリカ試験栽培出荷(5～8月) ・次世代園芸ハウスバブリカ1作目栽培開始(8月下旬)及び出荷開始(11月上旬)  (課題) ・クラスタープランの実践に向けた検討が不十分  (今後の方向性) ・クラスタープラン行動計画の修正を確認し、進捗管理を続ける。	1 施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み ・環境測定データを活用した実践可能な環境制御技術の推進 ・労力に合わせた増収対策の推進 ・次世代園芸ハウスの病害虫防除等の生産技術支援 ・次世代園芸ハウスの安定生産に向けた関係機関が連携した支援の検討  2 二次・三次産業との連携の具体化 ・行動計画の共有によるクラスタープラン進捗管理
			R3	120t	112.5t	B						
			R4	136.5t								
			R5	360t								
	農業	新規就農者数(施設野菜：雇用就農含む) 1人 (H28～R元)	R2	2人	3人	S	1 産地力強化のための担い手の確保・育成 ・営農意向調査結果の情報共有及び確認、更新(本山市連絡会4月1回、JA営農連絡会4月1回) ・農業担い手育成センター研修周知(4月10講座、8月2講座、11月1講座) ・就農相談状況、新規就農者状況共有(本山市連絡会等4～11月5回)	1 産地力強化のための担い手の確保・育成 ・営農意向調査結果の情報共有及び確認、更新(本山市連絡会4月1回、JA営農連絡会4月1回) ・農業担い手育成センター研修周知(4月10講座、8月2講座、11月1講座) ・就農相談状況、新規就農者状況共有(本山市連絡会等4～11月5回)	5人(累計)(11月末時点)	A	(成果) ・R4目標値は達成済み(R4:5人)  (課題) ・後継者候補者への情報収集計画の作成 ・モデル営農類型での所得確保が困難  (今後の方向性) ・担い手協議会で協議し、後継者候補調査等の取り組みをすすめる。 ・林業など他業種との連携による所得確保を検討する。	1 産地力強化のための担い手の確保・育成 ・後継者候補調査 ・新規就農者対応農業基礎講座
			R3	4人	5人	S						
			R4	5人								
			R5	6人 (R2～5)								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
農業	6 ㈱大豊町ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み(大豊町)  【実施主体】 ◎・㈱大豊町ゆとりファーム ・大豊町	クールベジタブルの販売額 913万円(H28～30平均)	R2	1,034万円	1,050万円	A	1 農地保全に向けたビジネスの展開 ・水稲育苗事業の推進 ・農地刈り入れや農作業受託の拡大 ・直販所向けの庭先集出荷活動 ・地域特産物(ぜんまい、碁石茶等)の製造 ・クールベジタブルの生産拡大のための作業省力化に係る設備導入、新たな販売先の掘り起こし ・自立に向けた体制見直し及び収益力の強化  2 新規就農者の確保・育成 ・地域おこし協力隊の募集、受入	1 農地保全に向けたビジネスの展開 ・水稲育苗を町内外へ出荷(1万トン程度) ・大豊町外(南国市・香美市)で農作業受託実施 ・クールベジタブルを3種類に集約化 ・県・町を交えた社内ミーティングの実施  2 新規就農者の確保・育成 ・地域おこし協力隊の受入(1名)	319万円(11月末時点)  ・R4目標達成率:41% ・対前年同期比:50%	D	(成果) ・社内ミーティングの実施により、情報交換がよりスムーズとなった。  (課題) ・事業の収益力が弱い ・人員不足  (今後の方向性) ・人件費等の経費を見直しながら、業績自体は横ばい推移を目指す	1 農地保全に向けたビジネスの展開 ・水稲育苗事業の推進 ・農地刈り入れや農作業受託の拡大 ・直販所向けの庭先集出荷活動 ・地域特産物(ぜんまい、碁石茶等)の製造 ・クールベジタブルの生産拡大のための作業省力化に係る設備導入、新たな販売先の掘り起こし ・自立に向けた体制見直し及び収益力の強化  2 新規就農者の確保・育成 ・地域おこし協力隊や研修生の募集、受入
			R3	1,155万円	718万円	D						
			R4	1,155万円								
			R5	1,400万円								
農業	7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興(土佐町、本山町、大豊町)  【実施主体】 ◎・㈱れいほく未来 ・肉用牛生産組合 ・JA高知県(土長地区) ・本山町 ・土佐町 ・大豊町 ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	土佐あかうしの販売額 3.2億円(H30)	R2	3.3億円	3.5億円	A	1 農家の経営規模の拡大 ・肥育牛の導入及び出荷頭数の増加  2 飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立 ・定期巡回による検診及び指導  3 6次産業化の推進 ・と畜、加工、流通機能を備えた新食肉センターの整備(R2～R4)  4 県内産粗飼料の積極的な利用 ・自給粗飼料作付けの増大及び稲WCS等の利用拡大	1 農家の経営規模の拡充 ・肉用牛安定化基金を利用し肥育素牛を導入 れいほく未来導入状況 5月:3頭、7月:11頭、8月:5頭、9月:8頭、11月:1頭、12月:5頭  2 飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立 ・定期巡回指導(月1回程度) ・新規就農者等に対して特別巡回指導(月2回) ・れいほく未来:肥育牛の血液プロファイルテストの実施 ・れいほく未来:繁殖管理及び発情発見装置の講義  3 6次産業化の推進 ・と畜、加工、流通機能を備えた新食肉センターの整備(R2～R4)  4 県内産粗飼料の積極的な利用推進 ・比較的規模が大きい農家での稲WCS等の利用拡大 ・令和5年度の稲WCS需要調査の実施	2.7億円(11月末時点)  ・R4目標達成率:119% ・対前年同期比:119%	S	(成果) ・れいほく未来の肥育素牛33頭導入(12月末) ・れいほく未来の肥育成績の改善 R3 R4(11月末) A2 51.8% 23.5% A3 25.3% 47.1% A4 15.7% 23.5% A5 0% 2.9% ・稲WCS利用農家数増加 R2 4戸 810口 R3 7戸 1,254口 R4 8戸 1,835口(12月末)  (課題) ・れいほく未来の肥育成績の改善 ・飼料価格及び資材価格の高騰  (今後の方向性) ・定期巡回以外に随時に繁殖検診及び育成牛の飼養管理等を指導	1 農家の経営規模の拡大 ・肉用牛安定化基金を利用し肥育素牛を導入  2 飼養技術の向上と安定的な出荷体制の確立 ・定期巡回指導(月1回程度) ・新規就農者等に対して特別巡回指導(月2回)  3 6次産業化の推進 ・新食肉センターの稼働(R5～)  4 県内産粗飼料の積極的な利用 ・比較的規模が大きい農家での稲WCS等の利用拡大
			R3	3.3億円	3.3億円	A						
			R4	3.4億円								
			R5	3.5億円								



(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
農業	8 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化 (大川村)  【実施主体】 ◎・(株)むらびと本舗 ◎・(一社)大川村ふるさとむら公社 ・大川村  ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	黒牛の販売額 7,100万円 (H30)	R2	5,500万円	6,753万円	S	1 生産・出荷体制の強化 ・繁殖牛・肥育牛の増頭 ・各種事業(増殖基金等)による経営支援 ・巡回指導等による技術支援	1 生産・出荷体制の強化 ・肥育素牛導入(嶺北家畜市場8頭、高原家畜市場6頭、その他0頭) ・子牛生産頭数(自家産):24頭 ・肥育牛出荷頭数:37頭 ・定期巡回指導(7回) ・増殖基金(R4:470万円)	5,155万円(11月末見込み)  ・R4目標達成率:138% ・対前年同期比:100%	S	(成果) ・販売額:51,553,861円 (11月末見込み)  (課題) ・繁殖雌牛の増頭 ・新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込み  (今後の方向性) ・一貫生産体制の充実に向けた体制や牛舎増築等の検討 ・オンラインを活用した販売促進イベントなど新たな取り組みの検討	1 生産・出荷体制の強化 ・繁殖牛・肥育牛の増頭 ・各種事業(増殖基金等)による経営支援 ・巡回指導等による技術支援 ・品質向上、生産体制の充実に向けた牛舎増築等の検討 ・オンラインを活用した販売促進イベントなど新たな取り組みの検討
			R3	5,500万円	6,676万円	S						
			R4	5,600万円								
			R5	7,500万円								
		はちきん地鶏の出荷羽数 7.4万羽 (H30)	R2	6.5万羽	6.2万羽	B	1 生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大 ・飼養管理・食鳥処理技術の向上、はちきん地鶏の付加価値販売、加工品の開発、販路開拓 ・関係機関と連携した協議(大川村PT等)、経営改善等支援 ・巡回指導等による技術支援	1 生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大 ・衛生管理指導(4回) ・大川村はちきん地鶏事業再建チーム会議(6月) ・大川村はちきん地鶏事業経営改善会議(9月) ・大川村PT等による収支分析、販路開拓等に向けた協議(随時) ・職場等への訪問販売(夏・冬) ・認知度向上に向けたイベント等の実施(はちきん食べようカーニバル等)	3.5万羽(11月末見込み)  ・R4目標達成率:81% ・対前年同期比:86%	C	(成果) ・出荷羽数:35,325羽(11月末見込み)  (課題) ・はちきん地鶏事業推進体制の強化 ・新型コロナウイルスの影響で不透明な需要や変化する顧客ニーズへの対応  (今後の方向性) ・事業財務分析の結果を踏まえ、事業の推進体制の強化を行っていく ・鶏肉の品質向上に努め、更なる販路拡大に取り組んでいく	1 生産体制の強化と食鳥処理技術の向上並びに販路拡大 ・飼養管理・食鳥処理技術の向上 ・はちきん地鶏の付加価値販売 ・新たな販路開拓(関西戦略と連携した営業強化、県内企業等への訪問販売、イベント販売等) ・販路拡大や出荷羽数増に向けた関係機関と連携した協議(大川村PT、事業再建チーム会議、土佐はちきん地鶏振興協議会等) ・経営改善等支援(随時) ・巡回指導等による技術支援
	R3		6.5万羽	5.7万羽	B							
	R4		6.5万羽									
	R5		12.5万羽									

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び 出发点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
林業	<b>9 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み (嶺北地域全域)</b>  <b>【実施主体】</b> ◎・自伐林家 ◎・森林組合 ◎・素材生産事業体 ・森林所有者 ・高知おおとよ製材(株) ・嶺北広域原木安定供給協議会 ・大豊町・本山町 ・土佐町・大川村 ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)	素材生産量 105,557 m <sup>3</sup> (H30)	R2	130,000 m <sup>3</sup>	114,304 m <sup>3</sup>	B	1 安定的な木材生産・供給システムの構築 ・林業事業体の体質強化と担い手育成確保 ・森の工場設定の検討 ・各事業体の木材生産計画進捗管理、指導及び情報収集  2 再造林の促進 ・伐採跡地への植林の推進  3 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進 ・未利用材 (林地残材) 利活用に係る支援実施  4 製材品等の生産 ・関係機関等と原木安定供給体制についての会議の開催 ・CLT建築推進協議会との連携	1 安定的な木材生産・供給システムの構築 ・木材増産・再造林促進プロジェクトチーム会 (1回) ・森の工場設定ヒアリング (2回) ・スマート林業現地研修会 (2回) ・素材生産事業体との増産に向けた聞き取り、協議 (森林組合、事業体 計8事業体)  2 再造林の促進 ・嶺北地区・再造林の促進 (2回)  3 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進 ・未利用材利活用に係る支援 (3町村) ・木質バイオマスエネルギー利用促進協議会 (2回)  4 製材品等の生産 ・高知おおとよ製材(株)運営委員会 (2回) ・CLT施設完成研修会 (1回)	49,559m <sup>3</sup> (10月末時点)  ・R4目標達成率: 61% ・対前年同期比: 96%	<b>D</b>  (成果) ・木材価格は、昨年と比較し低下傾向であるが、各事業体とも木材増産に向けて計画的な生産 (皆伐、搬出間伐) が進んでいる  (課題) ・素材生産量のさらなる確保 ・皆伐事業の増加に対する森林資源の維持 ・担い手の確保と林業技術の継承  (今後の方向性) ・木材生産計画の進捗管理、情報収集の継続	1 安定的な木材生産・供給システムの構築 ・林業事業体の体質強化と担い手育成確保 ・森の工場設定の検討 ・各事業体の木材生産計画進捗管理、指導及び情報収集  2 再造林の促進 ・伐採跡地への植林の推進  3 木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進 ・未利用材 (林地残材) 利活用に係る支援実施  4 製材品等の生産 ・関係機関等と原木安定供給体制についての会議の開催 ・CLT建築推進協議会との連携	
			R3	130,000 m <sup>3</sup>	120,361 m <sup>3</sup>	B						
			R4	139,000 m <sup>3</sup>								
			R5	144,000 m <sup>3</sup>								
林業	<b>10 れいほくスケルトン (嶺北材の卸別販売) をはじめとする嶺北材の促進 (嶺北地域全域)</b>  <b>【実施主体】</b> ◎・レイホク木材工業(協) ・本山町 ・土佐町	木材の出荷量 1,040m <sup>3</sup> (H30)	R2	1,200m <sup>3</sup>	222m <sup>3</sup>	D	1 販売促進 ・四国内における販売活動の展開 ・大阪等の大都市圏における新たな大規模需要をターゲットとした製品開発、販売活動の実施  2 エンドユーザーへのPR活動 ・パンフレット・ホームページによるPR活動 ・各種支援制度に関する情報提供	1 販売促進 ・販売活動を実施し納材 香川県16棟、高知県8棟  2 エンドユーザーへのPR活動 ・木づかい運動、木材利用推進月間 (10月) の周知	389m <sup>3</sup> (11月末時点)  ・R4目標達成率: 49% ・対前年同期比: 184%	<b>D</b>  (成果) ・公共事業への木材供給を行いつつ、県内外へ嶺北材の卸別販売に取り組む、納材することができている。  (課題) ・建築士等との連携による取引先の開拓  (今後の方向性) ・住宅資材不足の考慮と販売活動の維持	1 販売促進 ・四国内における販売活動の展開 ・大阪等の大都市圏における新たな大規模需要をターゲットとした製品開発、販売活動の実施  2 エンドユーザーへのPR活動 ・パンフレット・ホームページによるPR活動 ・各種支援制度に関する情報提供	
			R3	1,200m <sup>3</sup>	443m <sup>3</sup>	D						
			R4	1,200m <sup>3</sup>								
			R5	2,000m <sup>3</sup>								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>11 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興 (本山町)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・(前)さめうらフーズ ・集落活動センター汗見川 ・生産者	シソ・ユズ商品の販売額0.65億円 (H30)	R2	0.60億円	0.60億円	A	1 嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産 ・事業再構築補助金を活用した新工場 (ペットボトル生産工場) 稼働 ・補助金実績報告の作成サポート実施 2 新商品の開発 ・土佐天空の郷の米粉を使った「お米アイス」を本山町農業公社と共同開発し、8/1から販売開始 3 県外での販路拡大 ・「本山おいしそうれそたのしそキャンペーン7/22～8/31」開催 ・しそごち試飲会3回実施 (7/23本山さくら市、8/11モンベル、8/13汗見川遊泳場) 4 原料生産の強化 ・シソ栽培を行う集落活動センター汗見川との定期的な意見交換実施	0.48億円 (11月末時点) ・R4目標達成率：90% ・対前年同期比：— %	B	(成果) ・新工場の整備により原価低減が期待できる (課題) ・シソ・ユズの安定した原料の確保 ・認知度の向上、販路拡大 (今後の方向性) ・新工場稼働に合わせた新商品開発の検討 ・より認知度を増した「しそキャンペーン」などの実施	1 嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産 ・新工場の安定稼働 ・事業戦略策定にむけた検討 ・新工場でのHACCP第3ステージ取得に向けた準備 2 新商品の開発 ・地域資源を活用した新商品の開発 (シソやユズのジュース、リキュールなど) ・酒造免許取得にむけた書類作成等 3 県外での販路拡大 ・大規模スーパーマーケット向け商談会や食品商社主催商談会等への参加 4 原料生産の強化 ・集落活動センター汗見川のシソ栽培のサポート ・さめうらフーズのユズ収穫アルバイト確保への支援	
			R3	0.70億円	0.61億円	B						
			R4	0.8億円								
			R5	1億円								
商工業	<b>12 嶺北地域の特産品販売拡大への支援 (嶺北地域全域)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・sanchikara ・NPO法人土佐さめうら観光協会 ・土佐町 ・本山町 ・大豊町 ・大川村	県外飲食店等との直接取引による販売額1,955万円 (H30)	R2	2,800万円	2,230万円	C	1 農産物の直接販売の仕組みづくり ・JAの集出荷場移転の検討状況を踏まえたJAとの連携の模索 ・事業推進上の課題等についての土佐町との協議 ・地域の取組 (観光、社会教育等) との連携強化 2 農産物の確保 ・販売商品 (農産物) の発掘 3 販路の拡大 ・関西を中心とした商談会への参加 ・まるごと高知との連携	2,308万円 (11月末時点) ・R4目標達成率：115% ・対前年同期比：— %	S	(成果) ・直接取引飲食店等の件数増 (R4：10件) ・直接取引関係生産者等の増 (R4：25人) (課題) ・集出荷場移転の検討状況を踏まえたJAとの連携 (今後の方向性) ・集出荷場移転の検討状況を踏まえたJAとの連携 ・引き続き、関西を中心とした商談会への参加や、まるごと高知等との連携による販路拡大を図っていく	1 農産物の直接販売の仕組みづくり ・JAの集出荷場移転の検討状況を踏まえたJAとの連携の模索 ・事業推進上の課題等についての土佐町との協議 ・地域の取組 (観光、社会教育等) との連携強化 2 農産物の確保 ・販売商品 (農産物) の発掘 3 販路の拡大 ・関西を中心とした商談会への参加 ・まるごと高知との連携	
			R3	2,800万円	2,850万円	A						
			R4	3,000万円								
			R5	3,000万円								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	13 ばうむ合同会社による地域資源（木材・米）活用の取り組み（本山町）  【実施主体】 ◎・ばうむ合同会社 ・本山町  ※地域産業クラスター関連（嶺北林業クラスタープロジェクト）	木工品製品全般の売上金額 2,290万円 (H30)	R2	3,000万円	2,007万円	D	1 木工製品の製造・販売 ・ノベルティ商品企画販売会社との連携 ・県外商談会等への参加 ・県内イベント等での販売・PR	1 木工製品の製造・販売 ・ノベルティグッズの受注、販売	1,623万円（11月末時点）  ・R4目標達成率：35% ・対前年同期比：－%	D	(成果) ・ノベルティグッズ等特注品の受注  (課題) ・オリジナル商品の売上が少ないと多くの利益が望めない  (今後の方向性) ・各種商談会や催事に参加・出店し販促活動・PRを行う	1 木工製品の製造・販売 ・ノベルティ商品企画販売会社との連携 ・県外商談会等への参加 ・県内イベント等での販売・PR
			R3	5,000万円	1,569万円	D						
			R4	7,000万円								
			R5	8,900万円								
		焼酎の販売額 442万円 (H30)	R2	500万円	314万円	D	1 米焼酎の製造・販売 ・県外商談会への参加等、販売促進活動の実施 ・県内観光イベント等への出店・PR	1 米焼酎の製造・販売 ・県外商談会への参加等、販売促進活動の実施（「県外飲食店等との商談、美味アワード2023」への出品、認定等） ・県内観光イベント等への出店・PR（本山うまいもん祭参加等）	223万円（11月末時点）  ・R4目標達成率：22% ・対前年同期比：98%	D	(成果) ・商談会等への参加による販路拡大  (課題) ・コロナの影響により、飲食店関係の取り扱いが減少している  (今後の方向性) ・各種商談会やイベント等に参加・出店し・販売促進活動やPRを行う	1 米焼酎の製造・販売 ・県外商談会への参加など、販売促進活動の実施 ・県内観光イベント等への出店・PR
			R3	1,000万円	331万円	D						
			R4	1,500万円								
			R5	1,959万円								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
商工業	<b>14 碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開(大豊町)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・大豊町碁石茶協同組合、・大豊町	碁石茶関連商品の総販売額2,440万円(H30)	R2	2,800万円	2,536万円	B	1 加工品ビジネスの推進 ・新商品の開発や販路拡大、品質の管理の着実な実行 ・機能性表示の検討 2 新規生産者(組合員)の確保・育成 ・各種フェア等における新規就農者の募集活動の検討 ・碁石茶新需要創造協議会等による製法技術の継承、品質調査	1 加工品ビジネスの推進 ・新商品の開発に向けた関係者協議 ・機能性表示の検討 ・番茶フェス@東京・銀座に初出展(販促活動) 2 新規生産者(組合員)の確保・育成 ・新規農家等への声かけ ・文化庁調査事業の受入(文化財保護法に基づく記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されている)	1,112万円(11月末時点)	・R4目標達成率:50% ・対前年同期比:54%	(成果) ・新商品開発にむけ、組合をはじめとする関係者を交えた協議が本格開催された ・番茶フェス等のイベント出展により消費者の多い都市部での碁石茶PRにつながった (課題) ・新規農家の確保(生産量拡大) ・販路拡大 (今後の方向性) ・新商品の開発に注力しつつ、新規農家確保等に向けた働きかけを継続する	1 加工品ビジネスの推進 ・新商品の開発や販路拡大、品質の管理の着実な実行 ・機能性表示の検討 ・各種イベント出展等によるPR・販促活動 2 新規生産者(組合員)の確保・育成 ・各種フェア等における新規就農者の募集活動の検討 ・碁石茶新需要創造協議会等による製法技術の継承、品質調査
			R3	3,330万円	2,686万円	C						
			R4	3,330万円								
			R5	6,000万円								
商工業	<b>15 嶺北材を生かしたオリジナル木工品の製造・販売による地域活性化(土佐町)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・(株)Kハウス ◎・さめうらこむ、・土佐地区商工会	注文数(株)Kハウス418件(H30)	R2	500件	386件	C	1 販路開拓・販売促進(株)Kハウス ・自社HPでの販売PR ・大手ショッピングサイトでのネット販売 ・防音ゲージの改良 ・SNSを活用した情報発信	1 販路開拓・販売促進(株)Kハウス ・自社HPでの販売PR ・大手ショッピングサイトでのネット販売 ・防音ゲージの改良 ・SNSを活用した情報発信	158件(11月末時点)	・R4目標達成率:43% ・対前年同期比:68%	(課題) ・景気の不況により販売額の低下 ・価格の低い消費の発注増 (今後の方向性) ・SNS広告を用いての販促	1 販路開拓・販売促進(株)Kハウス ・自社HPでの販売PR ・大手ショッピングサイトでのネット販売 ・防音ゲージの改良 ・SNSを活用した情報発信
			R3	550件	334件	D						
			R4	550件								
			R5	750件								
		従業員数(さめうらこむ)5人(H30)	R2	5人	2人	D	1 販路開拓・販売促進(さめうらこむ) ・自社HPでの販売PR ・地域内事業者との連携 ・技術者の確保・育成	1 販路開拓・販売促進(さめうらこむ) ・自社HPでの販売PR ・地域内事業者との連携 ・技術者の確保・育成	0人(11月末時点)	・R4目標達成率:0% ・対前年同期比:-%	(課題) 目標としている雇用者数を増やす予定なし	1 販路開拓・販売促進(さめうらこむ) ・自社HPでの販売PR ・地域内事業者との連携 ・技術者の確保・育成
			R3	5人	0人	D						
			R4	5人								
		R5	6人									



(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】 R4取組状況	【C (Check)】・【A (Action)】 現時点の進捗状況			R5【P (Plan)】 R5計画
			年	目標	実績	達成度			R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
商 工 業	16 嶺北地域で140年 続く酒蔵の地産外商を 核とした地域活性化 (土佐町)  【実施主体】 ◎・土佐酒造㈱	売上高 1億5,067 万円 (H30)	R2	1億 8,500 万円	2億 1,470 万円	S	1 生産性の向上及び販路拡大 ・リモート商談及び四国内への営業強化 ・欧州やアジア地域への販路拡大 ・食品加工施設等整備促進事業費補助金を活用した新工場の整備、瓶詰めラインの一体化（自動洗瓶機）、蒸米温風冷却装置の導入 ↳ 2月末事業完了予定（現在建築中）  ・新たな建屋建築に伴い、既存の倉庫を移設する必要があったため、自費で建屋を建設（前社長の自宅跡）	1 生産性の向上及び販路拡大 ・リモート商談及び四国内への営業強化 ・欧州やアジア地域への営業強化（現地スタッフとの連携） ・食品加工施設等整備促進事業費補助金を活用した新工場の整備、瓶詰めラインの一体化（自動洗瓶機）、蒸米温風冷却装置の導入 ↳ 2月末事業完了予定（現在建築中）  ・新たな建屋建築に伴い、既存の倉庫を移設する必要があったため、自費で建屋を建設（前社長の自宅跡）	2億902万円（11月末時点）  ・R4目標達成率：105% ・対前年同期比：118%	A	(成果) ・売上高の増 ・温度管理された新工場の増設、自動洗瓶機等の導入により、品質を高く保った状態で大ロット出荷に対応できるスペースの確保、輸出量増加に伴う出荷体制が整う予定  (課題) ・売上規模拡大に伴う生産体制の確立  (今後の方向性) ・季節や品目を問わず増産対応が可能な製造体制の構築 ・品質や衛生管理面が強化された設備を活用し、海外市場のニーズに合った商品の生産および輸出量の拡大	1 生産性の向上及び販路拡大 ・リモート商談及び四国内への営業強化 ・売上規模拡大に伴い、季節や品目を問わず増産対応が可能な製造体制の構築 ・新工場建設後の品質や衛生面、生産性向上による海外展開の加速化
			R3	2億 2,000 万円	3億351 万円	S						
			R4	3億円								
			R5	3億 6,000 万円								
	地元産原 料米調達 量 88t (H30)	R2	105t	100t	B	1 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米作りに向けた声かけ ・集落活動センター松ヶ丘と連携した農家への声かけ ・地元で酒米生産に携わっている農家への積極的勧誘	1 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米作りに向けた声かけ ・集落活動センター松ヶ丘と連携した農家への声かけ ・地元産酒米の安定調達と品質向上の実現に向けた農家との勉強会を開催し関係性を深化	108t（11月末時点）  ・R4目標達成率：101% ・対前年同期比：97%	A	(成果) ・地元産の酒米の調達量の増加  (課題) ・地元産の酒米の生産量の拡大  (今後の方向性) ・酒米作りに向けた声かけの継続 ・地元産酒米の安定調達と品質向上の実現に向けた農家との勉強会開催により関係性を深める	1 地元産原料米の調達拡大 ・土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米作りに向けた声かけ ・集落活動センター松ヶ丘と連携した農家への声かけ ・地元産酒米の安定調達と品質向上の実現に向けた農家との勉強会開催により関係性を深める	
		R3	115t	140t	S							
		R4	160t									
		R5	170t									
	従業員数 15人 (H30)	R2	16人	17人	A	1 雇用の創出及び地域経済活性化 ・生産量の拡大 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入れ	1 雇用の創出及び地域経済活性化 ・従業員募集中 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入れ	16人（11月末時点）  ・R4目標達成率：100% ・対前年同期比：—%	A	(成果) ・団体ツアーの受け入れ  (課題) ・従業員の確保  (今後の方向性) ・従業員の確保に向けて引き続き取り組む	1 雇用の創出及び地域経済活性化 ・従業員の募集・確保 ・生産量の拡大 ・各種旅行会社の団体ツアーの受け入れ	
		R3	21人	23人	S							
		R4	24人									
R5		25人										



(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】 R4取組状況	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】 R5計画
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
商 工 業	17 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大 (大豊町)  【実施主体】 ◎燈ので家、大豊町商工会	出荷量 (燈ので家) 0t (H30)	R2	1.8t	0.2t	D	1 ペットフードの生産拡大 ・事業計画の策定 ・加工場整備に向けた検討  2 販路拡大 ・関東圏における各種展示会への出展 検討 ・県内ペットショップ等との連携	1 ペットフードの生産拡大 ・高知県産業振興センター、高知銀行のサポートによる事業戦略シートの策定  2 販路拡大 ・東京におけるペットフード展示会へ現場視察 ・OEMによるペットフード販売検討（関東） ・ノベルティ（パンフレット）作成検討 ・町内販売所への営業活動 ・高知龍馬空港、サニーマート店頭での販売開始 ・県内ペットショップでの販売検討（申請作業中）	0.12t（11月末時点）  ・R4目標達成率：10% ・対前年同期比：143%	D	(成果) ・事業戦略シートの作成 ・OEMによるペットフード販売の展開（関東） ・町内販売所（農家食堂ファミリー大杉）での取扱開始 ・県内各所での取扱開始（空港、スーパー）  (課題) ・生産拡大のための原材料確保 ・販路拡大 ・加工設備の拡充  (今後の方向性) ・高付加価値の商品開発 ・販促グッズの検討	1 ペットフードの生産拡大 ・事業計画の策定 ・加工場整備に向けた検討  2 販路拡大 ・関東圏における各種展示会への出展 検討 ・県内ペットショップ等との連携
			R3	1.8t	0.12t	D						
			R4	1.8t								
			R5	2.1t								
		処理頭数 ※ (猪鹿工房 おおよそ) 163頭 (H30)	R2	200頭	85頭	D			R4年度以降指標から除く  ・R4目標達成率：－% ・対前年同期比：－%			
			R3	200頭	69頭	D						
			R4									
			R5									

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>18 嶺北地域の連携による交流人口の拡大(嶺北地域全域)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・(一社)土佐いほく観光協議会 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	主要観光施設の入込数 284,813人 (H27～29平均)	R2	167,000人	279,191人	S	1 エリアマーケティング機能の強化 ・アンケートを活用した市場調査 ・観光施設の入込数等の実態調査 ・アプリを活用した顧客の囲い込み化  2 れいほくならではの魅力ある商品開発の推進 ・体験プログラムの開発・磨き上げ ・周遊・宿泊促進商品の開発・磨き上げ  3 セールスの強化・推進 ・旅行会社へのセールスの実施 ・企業や大学等へのセールス、タイアップ	1 エリアマーケティング機能の強化 ・アンケートを活用した市場調査や観光施設の入込数等の実態調査の結果を分析、関係者へフィードバックし、ターゲットの選定や受入体制整備についての提言の実施 ・アプリを活用し、クーポンの配布やスタンプラリーの実施(16事業者参画) ・デジタルデータ活用事業への参画(県事業の活用)  2 れいほくならではの魅力ある商品開発の推進 ・県事業「土佐の観光創生塾」を活用した体験プログラムの開発(2商品) ・アドバイザーを活用した周遊商品の開発(8商品) ・「れいほく体験博覧会れいほく。」の実施(5/22～6/12、12事業者参画、入込数94名) ・体験型観光促進事業費補助金(1事業者)、バスツアー補助金(7事業者、30件)の創設  3 セールスの強化・推進 ・コロナウイルス感染状況を見つつ、旅行会社等へのセールスを実施(149社)。メディア系旅行会社5社において募集型企画旅行の誘致を行った(17設定) ・跡見学園女子大学「観光まちづくり研修ツアー」の実施(9月) ・嶺北地域誘客促進(クーポン券)キャンペーンの実施(10月～)	277,754人 (11月末時点)  ・R4目標達成率:100% ・対前年同期比:109%	A	(成果) ・観光施設、体験施設、飲食施設、物産施設の全てにおいて、対前年同期比を上回っており、順調に推移している。  (課題) ・インバウンド等これまで取り組んできたターゲット以外の旅行者のニーズを捉え、整備・実行していく必要があるが、現状ではできていない。  (今後の方向性) ・多言語サイトの作成やデジタルデータに基づいた分析を実施し、より効果的なPR方法を検証、実行していくことで、域内へ旅行者を呼び込むとともに、旅ナカでの情報発信を強化することで、周遊促進に繋げる。	1 エリアマーケティング機能の強化 ・アンケートを活用した市場調査 ・観光施設の入込数等の実態調査  2 れいほくならではの魅力ある商品開発の推進 ・体験プログラムの開発・磨き上げ ・周遊・宿泊促進商品の開発・磨き上げ  3 セールスの強化・推進 ・旅行会社へのセールスの実施 ・企業や大学等へのセールス、タイアップ  4 れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進 ・プラットホームの整備 ・会員へのPR ・デジタル・アナログメディアを活用したPR ・OTAを活用したPR ・県や高知市、メディア等と連携したPR ・土産、飲食等の情報収集・発信・サポート ・広域イベントの支援
			R3	379,562人	351,245人	B						
			R4	417,516人								
			R5	459,267人								
		主要宿泊施設宿泊者数 14,577人 (H27～29平均)	R2	12,000人	17,399人	S	4 れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進 ・HPのリニューアル(4月～) ・観光情報発信支援委託業務への参画(県事業の活用) ・SNS等のデジタルメディアやテレビ・新聞広告等のアナログメディアを活用し、PRを実施  5 受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化 ・広域観光組織担当会の実施(1回) ・広域観光組織事務局長会への出席(2回) ・土佐の観光創生塾の参加(4回) ・じゃらん「観光振興セミナー」の受講(2回) ・社員総会の開催(1回) ・委員会の実施(2回) ・高知県教育旅行連絡会の出席(2回) ・連続テレビ小説を生かした博覧会推進協議会への出席(2回)	22,711人(11月末時点)  ・R4目標達成率:155% ・対前年同期比:112%	S	(成果) ・対前年同期比112%と順調に推移している。  (課題) ・順調に宿泊者を呼び込むことが出来ているものの、閑散期の対策を実施する必要がある。  (今後の方向性) ・R2年度から新型コロナウイルス感染症によって落ち込んでいる需要喚起策、また閑散期対策として、今年度もクーポン事業を実施。域内への宿泊者増を図る。	5 受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化 ・人材育成及び担い手の創出 ・担い手支援 ・住民の参画の推進及び意識醸成 ・受入体制の整備(ソフト・ハード整備) ・組織内体制強化 ・地域事業者・団体等との連携・協力体制強化 ・ワンストップ窓口体制の構築	
			R3	20,042人	25,957人	S						
			R4	22,046人								
			R5	24,250人								
		民泊受入世帯数 89世帯 (H30)	R2	93世帯	83世帯	B	5 受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化 ・人材育成及び担い手の創出 ・担い手支援 ・住民の参画の推進及び意識醸成 ・受入体制の整備(ソフト・ハード整備) ・組織内体制強化 ・地域事業者・団体等との連携・協力体制強化 ・ワンストップ窓口体制の構築	・クーポン事業に関する地域関係者との協議 ・れいほく民泊研修の実施 ・宿泊施設魅力向上支援事業セミナーへの参加 ・教育旅行の受入手配(受入件数117校12,777人) ・旅行業取扱主任者の合格(10月) ・観光庁候補DMOへの登録(10月)	57世帯(11月末時点)  ・R4目標達成率:94% ・対前年同期比:69%	B	(成果) ・新型コロナウイルス感染症の影響で民泊の受入を中止している。 ・民泊受入家庭の実態を測るため、アンケート調査を実施した。  (課題) ・民泊の受入を中止している間に、受入家庭の意欲低下が懸念され、現状、減少傾向にある。  (今後の方向性) ・訪問による状況の確認や民泊連合会を実施し、民泊受入家庭へ協力を仰ぐとともに、先進地域への視察・研修を実施する。	
			R3	91世帯	81世帯	B						
			R4	91世帯								
			R5	120世帯								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
			年	目標	実績	達成度			現時点の進捗状況			
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>19 嶺北広域観光アウトドアの里づくり (嶺北地域全域)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・本山市、大豊町、土佐町、大川村、本山市白髪山・工石山保全活用推進協議会 ※地域産業クラスター関連 (本山市施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト)	モンベルアウトドアヴィレッジ本山の利用者数43,013人 (R元、7～12月)	R2	50,000人	58,674人	S	1 アウトドア拠点施設(モンベルアウトドアヴィレッジ本山)の運営・誘客 ・ガイド養成講座の実施 (ラフティング等) ・教育旅行、団体旅行等の誘致に向けた営業活動 ・アウトドアヴィレッジ本山から町内各地への誘客の取り組み (イベント等)の実施 ・広報・PRの実施	1 アウトドア拠点施設(モンベルアウトドアヴィレッジ本山)の運営・誘客 ・ガイド養成講座の実施11回(ラフティング等：11月末時点) ・教育旅行、団体旅行等の誘致に向けた観光関連事業者からの情報収集 (随時) ・「観光庁サステナブルな観光コンテンツ強化事業」の活用 (旅行会社・教育関係者向けモニターツアー、アンケート調査等) ・防災学習受け入れ(テント張り・火おこし体験等) 7/13岡山市立富山中学校 112名 9/1・2倉敷市立庄中学校 140名 9/29真庭市立北房中学校 38名 ・モンベルフレンドフェアin本山開催 (10/29・30)	39,716人 (11月末時点) ・R4目標達成率：119% ・対前年同期比：91%	S	(成果) ・拠点施設では一般観光客だけでなく修学旅行などの団体客の誘致活動を行い、利用者数が順調に伸びている。 (課題) ・効果的な情報の発信、広域観光組織との連携等によるさらなる誘客 ・本山市内各地への交流人口の拡大 (今後の方向性) ・ガイド養成講座の実施 (ラフティング等) ・教育旅行、団体旅行等の誘致に向けた営業活動 ・アウトドアヴィレッジ本山から町内各地への誘客の促進 (イベント等)の実施 ・広報・PRの実施	1 アウトドア拠点施設(モンベルアウトドアヴィレッジ本山)の運営・誘客 ・ガイド養成講座の実施 (ラフティング等) ・教育旅行、団体旅行等の誘致に向けた営業活動 ・アウトドアヴィレッジ本山から町内各地への誘客の取り組み (イベント等)の実施 ・広報・PRの実施
			R3	50,000人	62,879人	S						
			R4	50,000人								
			R5	50,000人								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】		【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】
	項目名及び実施主体	指標及び出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標に対する現状	達成度(※)	現状分析	
観光	<b>20 嶺北地域における山岳観光の推進(嶺北地域全域)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・大川村 ◎・(一社)大川村ふるさと村公社、・本山町、 ・大豊町、・土佐町	白滝の里施設利用者数 9,071人(H30)	R2	11,480人	7,172人	D	1 地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ ・観光人材の確保、村の自然資源等を活用した体験プログラムの開発 ・民間企業との連携や各種アドバイザーの活用による体験プログラムの磨き上げ ・季節ごとの各種体験プログラムの実施 ・効果的な情報発信 2 白滝の里再整備 ・白滝の里再整備の検討	1 地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ ・高校生団体客(5/31釜山ツアー) ・観光体験プログラム現地打ち合わせ(6/30大川村・大川村ふるさと村公社) ・観光事業者との協議(随時) ・井野川たてなが集落歩きツアー実施(8月に4回実施、12/3 7人参加) ・大川村ブランディング推進協議会における大川村の知名度向上に向けた協議(随時) ・はちきん食べようカーニバル(10/29 33人参加) ・大川村謝肉祭(11/3 1約1,500人参加) ・大川村グランドフェスティバル2022(自転車耐久レース)(11/26 43人参加) ・1月に実施予定の在日外国籍女性をターゲットにしたヘルシーツアーの新規造成に向けた下見実施(12/7-12/8 2人参加) ・大川村観光情報発信サイト「いぐ!大川村」による情報発信の継続。 2 白滝の里再整備 ・体育館の床修繕など維持管理上必要な修繕を実施(再整備は当面延期中)	4,824人(11月末時点) ・R4目標達成率:55% ・対前年同期比:-%	D	(成果) ・新たな体験プログラムの実施(井野川たてなが集落歩きツアー等) (課題) ・既存の体験プログラムの磨き上げと新たな体験プログラムの開発 ・体験プログラム運営主体の体制強化各種イベント等の効果的な情報発信 ・広域観光組織等との取組の連携 (今後の方向性) ・既存の体験プログラムの磨き上げと新たな体験プログラムの開発 ・体験プログラム運営主体の体制強化各種イベント等の効果的な情報発信 ・広域観光組織等との取組の連携 ・継続的に建物の維持管理上必要な修繕の実施(白滝の里)	1 地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ ・観光人材の確保、村の自然資源等を活用した体験プログラムの開発 ・民間企業との連携や各種アドバイザーの活用による体験プログラムの磨き上げ ・季節ごとの各種体験プログラムの実施 ・効果的な情報発信 2 白滝の里再整備 ・継続的に建物の維持管理上必要な修繕の実施
			R3	12,360人	6,969人	D						
			R4	13,220人								
			R5	15,000人								
観光	<b>21 さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興(土佐町)</b> <b>【実施主体】</b> ◎・土佐町 ◎・民間事業者等 ・大川村 ・本山町 ・大豊町 ※地域産業クラスター関連(嶺北畜産クラスタープロジェクト)	さめうら荘利用者数 15,961人(H30)	R2	25,000人	16,587人	D	1 さめうら荘への誘客 ・接遇のスキルアップ、顧客満足度の向上に向けた取組 ・SNSを活用した情報発信 ・宿泊客向け食事メニューの充実 ・カヌー・SUP体験をセットにした宿泊プラン販売 ・OTAサイトを活用した誘客	1 さめうら荘への誘客 ・接遇のスキルアップ、顧客満足度の向上に向けた取組【通年】 ・SNSを活用した情報発信【通年】 ・宿泊客向け食事メニューの充実【通年】 ・カヌー・SUP体験をセットにした宿泊プラン造成・販売【通年】 ・OTAサイトを活用した誘客【通年】	13,660人(11月末時点) ・R4目標達成率:76% ・対前年同期比:-%	C	(成果) ・宿泊向け食事メニューの充実 (課題) ・コロナ禍で状況が不透明な中での売り上げの維持・向上 (今後の方向性) ・顧客満足度の向上に向けて引き続き取り組む	1 さめうら荘への誘客 ・接遇のスキルアップ、顧客満足度の向上に向けた取組 ・SNSを活用した情報発信 ・宿泊客向け食事メニューの充実 ・カヌー・SUP体験をセットにした宿泊プラン販売 ・OTAサイトを活用した誘客
			R3	26,000人	17,135人	D						
			R4	27,000人								
			R5	28,000人								
	カヌー拠点施設利用者数 0人(H30)	R2	380人	6,329人	S	1 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・カヌーアカデミーの実施 2 カヌー拠点施設への誘客 ・HPやSNS等を活用した情報発信 ・さめうらテントパークの整備(2期工事)事業戦略策定 ↳策定後補助金申請(観光振興推進総合支援事業費補助金) ・さめうらテントパークオープニングイベントの実施(7/3) ・さんしんGO放送(7/10) ・土佐町体験博「とさんぼ」への掲載・実施【8月】	9,511人(11月末時点) ・R4目標達成率:939% ・対前年同期比:105.5%	S	(成果) ・「さめうらテントパーク」のオープン (課題) ・さめうらテントパークの第2期工事の実施 ・さめうらテントパークの運営・誘客 (今後の方向性) ・キャンプシーズン以外の誘客	1 さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興 ・カヌーアカデミーの実施 2 カヌー拠点施設への誘客 ・さめうらテントパークの段階的な整備による、さめうら湖周辺施設への誘客 ・HPやSNS等を活用した情報発信 ・土佐町体験博「とさんぼ」への掲載・実施		
		R3	1,300人	12,448人	S							
		R4	1,520人									
		R5	1,520人									



(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	【P (Plan)】						【D (Do)】	【C (Check)】・【A (Action)】			R5【P (Plan)】	
	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	年	目標	実績	達成度	R4計画	R4取組状況	現時点の進捗状況			R5計画
									R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
その他	22 集落活動センター西峰におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み (大豊町)  【実施主体】 ◎・西峰地区活性化推進委員会 ・大豊町  ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)	出荷本数 20,900本 (R元)	R2	19,520本	7,518本	D	1 林業用苗木(コンテナ苗)の生産体制の強化 ・大豊町役場による集落支援員等の配置の検討 ・移植、出荷作業を絡めたイベントの実施検討 ・地元関係者への移植、出荷作業参加呼びかけ  2 林業用苗木(コンテナ苗)の生産・販売 ・散水等栽培管理/作業日誌への記録 ・林業振興事務所等の技術支援、運営支援 ・コンテナへの移植作業 ・播種 ・出荷	1 林業用苗木(コンテナ苗)の生産体制の強化 ・大豊町役場による集落支援員等の配置の検討 ・大豊町役場、嶺北林業振興事務所、嶺北地域本部、集落活動センターによる体制整備の協議  2 林業用苗木(コンテナ苗)の生産・販売 ・杉幼苗移植作業 (5/27～29、9/8～9) ・苗木出荷作業 (6月、10～12月)	16,936本 (12月末時点)  ・R4目標達成率: 113% ・対前年同期比: 3,387%	S	(成果) ・県森林技術センター、嶺北林業振興事務所等の指導を受け、現在は病害虫による被害が抑えられている。 ・出荷本数は持ち直してきた。  (課題) ・苗木の出荷本数は持ち直してきたが、出荷時期が定まっておらず、生育状況によっては、大量に廃棄しなければならない。 ・育苗管理する中心人物が確保できていない。  (今後の方向性) ・育ちすぎて規格外となった苗は廃棄。今後、杉の品種や生産量について、検討する必要がある。 ・集落支援員等の確保について、引き続き役場とも検討していく。	1 林業用苗木(コンテナ苗)の生産体制の強化 ・移植、出荷作業を絡めたイベントの実施検討 ・地元関係者への移植、出荷作業参加呼びかけ  2 林業用苗木(コンテナ苗)の生産・販売 ・散水等栽培管理/作業日誌への記録 ・林業振興事務所等の技術支援、運営支援 ・コンテナへの移植作業 ・播種 ・出荷
			R3	6,000本	2,820本	D						
			R4	20,000本								
			R5	40,000本								
その他	23 集落活動センターいしはらの里による地域活性化の取り組み (土佐町)  【実施主体】 ◎・合同会社いしはらの里、いしはらの里協議会、土佐町  ※地域産業クラスター関連 (嶺北林業クラスタープロジェクト)	宿泊者数 (延べ) 93人 (H30)	R2	625人	352人	D	1 交流人口の拡大 ・HPやSNS等を活用した情報発信 ・各種イベントの開催 ・県内外の小中高校生の修学・研修旅行の受け入れ ・体験メニューの見直し (宿泊とのセットプランの造成) ・インターネット予約サイトを活用した利用客の受け入れ  2 宿泊施設の整備・運営 ・エージェントツアーの受入、団体への情報発信 ・体験メニューの見直し (宿泊と体験のセットプランの造成)	1 交流人口の拡大 ・NHK こちいちばん (6/8) 「集落活動センターいしはらの里の取り組みについて」 ・体験メニュー受け入れ 980人 (11月末) 昨年度実績: 1,034人 ・羽釜ご飯づくり体験など新メニューの追加 ・インターネット予約サイトを活用した利用客の受け入れ ・慶應義塾大学 未来構想キャンプの実施 (8/19,20)  2 宿泊施設の整備・運営 ・宿泊後の掃除などの業務をルーチン化 ・毎月の定例会において、予約状況の確認と体験メニューの実施方法について協議を行っている	417人 (11月末時点)  ・R4目標達成率: 72% ・対前年同期比: 160%	C	(成果) ・新たなメニューの造成 ・業務内容のルーチン化  (課題) ・自立に向けた収益基盤の確立  (今後の方向性) ・既存メニューのブラッシュアップ	1 交流人口の拡大 ・HPやSNS等を活用した情報発信 ・各種イベントの開催 ・県内外の小中高校生の修学・研修旅行の受け入れ ・体験メニューの見直し (宿泊とのセットプランの造成) ・インターネット予約サイトを活用した利用客の受け入れ  2 宿泊施設の整備・運営 ・エージェントツアーの受入、団体への情報発信 ・体験メニューの見直し (宿泊と体験のセットプランの造成)
			R3	750人	349人	D						
			R4	875人								
			R5	1,000人								

(2) 目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

指標	達成度の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの

(注) Pの「目標」は、R5は第4期産業振興計画の目標、R2～R4はR5目標に向けての到達目標

分野	項目名及び実施主体	指標及び 出発点	【P (Plan)】				R4計画	【D (Do)】 R4取組状況	【C (Check)】・【A (Action)】 現時点の進捗状況			R5【P (Plan)】 R5計画
			年	目標	実績	達成度			R4到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析	
その他	24 集落活動センター 汗見川による地域活性化の取り組み (本山町)  【実施主体】 ◎・汗見川活性化推進委員会、・本山町	宿泊者数 (延べ) 838人 (H30)	R2	1,400人	436人	D	1 交流人口の拡大 ・各種イベントの開催 ・オンライン体験の開催 ・汗見川ファンクラブ会員募集 ・汗見川清流マラソンでの会員募集 ・にし恋マルシェへの出店	1 交流人口の拡大 ・岸つじほのぼの体験ツアー(4/17) ・汗見川でチャチャ茶(5/15) ・たなばたランチ(7/3) ・そばの種まき&そば打ち体験(8/14) ・汗見川清流マラソン中止(オンライン開催) ・モンベルフレンドフェア出店 (10/29～30) ・にし恋マルシェ出店 (10/30) ・そばの収穫祭 (11/3、11/23)	651人 (11月末時点)  ・R4目標達成率：70% ・対前年同期比：116%	C	(成果) ・コロナのため密を避ける動きと、天候が良かったことから宿泊者数が伸びた。  (課題) ・コロナの状況によっては、宿泊者数等に影響がある。  (今後の方向性) ・ウィズコロナに対応できるよう、オンライン体験等を充実させる。	1 交流人口の拡大 ・各種イベントの開催 ・オンライン体験の開催 ・汗見川ファンクラブ会員募集 ・汗見川清流マラソンでの会員募集 ・にし恋マルシェへの出店
			R3	1,400人	641人	D						
			R4	1,400人								
			R5	1,400人								
	シソ原液出荷量 7,092L (R元)	R2	9,000L	8,460L	B	1 シソの生産拡大および加工品の販売促進 ・しそ出荷者会議の実施 ・汗見川独自のシソ新商品開発 ・栽培面積の拡大	1 シソの生産拡大および加工品の販売促進 ・しそ出荷者会議 ・しそ苗定植 (5月) ・収穫、抽出 (6月～) ・吉野遊泳場での試飲会 ・しそキャンペーン (町内 7～8月)	10,278L (R4実績) ※収穫終了  ・R4目標達成率：114% ・対前年同期比：91%	S	(成果) ・卸先からの注文数量に応えることができた  (課題) ・実績以上の製造キャパがあるが、卸先の倉庫容量の関係で本年の出荷を終了した。  (今後の方向性) ・販売促進・消費拡大に協力して出荷量を増やす。	1 シソの生産拡大および加工品の販売促進 ・しそ出荷者会議の実施 ・汗見川独自のシソ新商品開発 ・栽培面積の拡大	
		R3	9,000L	11,250L	B							
		R4	9,000L	10,278L	S							
		R5	9,000L									



- 2 令和4年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）  
該当なし

## 地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指していきます。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、18のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況
額北	農業	No.5 額北畜産クラスタープロジェクト	額北地域の特産物である土佐あかうし、大川黒牛、土佐はちきん地鶏のさらなる生産拡大とともに6次産業化による付加価値を高め、増産しながら販路拡大を進めるとともに、雇用の場の創出と観光資源の磨き上げを図る。	<p>（土佐あかうし）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・畜舎等整備による飼養頭数の増加や、増産のための技術的支援を実施した。</li> <li>・篤農家による肥育牛の飼養管理指導及び産振アドバイザーの導入による(株)れいほく未来のマネジメント強化に向けた支援を実施している。</li> </ul> <p>（大川黒牛）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肥育牛舎の整備及び「大川村プロジェクト」の推進による販売増につなげた。</li> </ul> <p>（土佐はちきん地鶏）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工のための食鳥処理施設の整備のほか、生産体制の効率化や販売戦略の見直しを行った。また、外商社と連携したPRなど販売促進を行った。</li> <li>・土佐はちきん地鶏事業再建チームによる、生産体制の効率化や販売促進に必要な支援を実施している。</li> </ul>
		関連する地域AP	<p>No.7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の振興</p> <p>No.8 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産の活性化 ほか</p>	<p>これまでの取り組み（H28～R3）</p> <p>R4年度の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・篤農家及び家畜保健所等による飼養牛の飼養管理指導。</li> <li>・土佐あかうし、土佐はちきん地鶏の認知度向上に向けた各種イベントや、額北エリアの宿泊施設利用者向けに、観光施設、飲食店等で使えるクーポン配布キャンペーンの実施。</li> <li>・土佐はちきん地鶏の新たな販路の確保に向けた支援。</li> </ul>
		No.6 額北林業クラスタープロジェクト	<p>県内外の若者が山に関する仕事に就くことができる環境を整備するため、額北地域の豊かな森林資源を活用し、安定的な木材生産・供給システムを構築する。</p>	<p>これまでの取り組み（H28～R3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な木材生産・供給システムの構築に向けて、森の工場（小規模な森林をまとめて一体的に整備したもの）の認定を推進。そのことにより認定数が増加（H28：37団地→R3：47団地）した。</li> <li>・大豊町で整備していたストックヤードがR2.4月から稼働し、地域外への製材製品の安定供給が可能になった。</li> <li>・木質バイオマス発電施設については、急速、県のR2.9月補正で整備することになったことにより、整備が遅れていたが、R4.4月に完成した。</li> <li>・国産材需要の高まりを受けて木材流通が活発化している。</li> </ul> <p>R4年度の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・額北材の需要喚起に向けたPR、営業活動の強化。</li> </ul>
農業	No.7 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト	次世代型園芸ハウスの整備等による農産物の生産拡大を核に、農業クラスターの形成を図る。	<p>これまでの取り組み（H28～R3）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代園芸用ハウス（パブリカの生産）の整備と併せて、関係機関と連携し、育苗生産体制や栽培管理など営農開始に向けた支援を実施した。また、雇用された従業員（職員）に対する農業研修を実施した。</li> <li>・本山町農業公社と額北高校の学生がパブリカを使った加工品を共同開発するとともに、アウトドアレジャ本山（モンベル）と、農業体験ツアー実施などが検討された。</li> </ul>	
	関連する地域AP	<p>No.3 直販所「さくら市」を核とした地域活性化</p> <p>No.19 額北広域観光アウトドアの里づくり ほか</p>	<p>R4年度の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設野菜農家の収量確保に向けた栽培・防除技術での取り組みの継続。</li> <li>・次世代園芸用ハウスでの安定生産に向けた技術支援。</li> <li>・担い手確保に向けた体制整備と新規就農者への支援強化。</li> <li>・次世代園芸用ハウスと観光が連携したクラスタープランの具体化・実行（本山さくら市の売上高向上に向けた組織体制の強化、観光施設や飲食店と連携した食材活用と観光ルートマップの作成など）</li> </ul>	